武士の起こりと鎌倉幕府

今までは天皇による統治がおこなわれてきた日本だったが・・・度重なる反乱や争いの結果、武士が力をつけ、武士による政治へと変化します！

~まずは流れを説明~

1. 地方の治安が乱れ、土地を守るための武士団が結成される中、関東で平将門(平氏)が反乱を起こし、瀬戸内海で藤原純友(藤原氏)が反乱を起こした。
2. 11世紀後半になると、源義家(源氏)が東北地方の二つの戦乱を鎮めた。源氏の力UP！
3. 奥州藤原氏(東北地方にいる藤原氏)が、岩手県を拠点に東北地方を支配する

※奥州藤原氏は浄土に憧れがあり、中尊寺金色堂を建てた

以上の三つの流れで、武士の勢力が増した

そこで後三条天皇は・・・摂関家(藤原家が独占する摂政・関白)を抑えようとした！

※藤原氏に重要な役職を占領されているままでは、天皇の威厳が無いから。

その結果、白河上皇(後三条天皇が子供に位を譲って上皇となった状態の呼び方)が院政(天皇が位を譲っても、天皇として政治を続ける形)を開始した。

　しかしここで、天皇の家系内で、院政を誰が引き継ぐかで争い始める。その結果始まったのが・・・保元の乱(1156年)

**源頼賢、源為朝、平忠正(**崇徳上皇側**)VS藤原信西、平清盛、源義朝(後白河天皇側)**

**※結果は、藤原信西・平清盛・源義朝(後白河天皇側)が勝利**

保元の乱の後・・・平氏は政治の主導権を握っている藤原家と仲良し。これに反感をった源氏が、政治の実権を握っていた藤原家の藤原通憲を自殺に追い込む➔平治の乱

平治の乱(1159年)

平氏の代表である平清盛が、仕返しに源氏の(源義朝)を討ち、義朝の子(源頼朝)を伊豆送りにした乱。

　そして、源氏を討った平清盛は太政大臣となり、政権を握る（平家が完全に政治を支配！）

平清盛は、兵庫に港を整備し、中国の宋との貿易(日宋貿易)で大きな利益を得る。

しかし・・・・源平の争乱(1185年)：源頼朝が源義経(弟)を使い、壇ノ浦で、平氏を滅ぼす！

平氏滅亡後、鎌倉幕府が成立！

鎌倉幕府

源頼朝(征夷大将軍)

1. 全国に守護と地頭を置く　※守護は警察的な役割。地頭は年貢の管理などが役割。
2. 封建制度　※将軍と御家人(戦いに出向く人)は御恩(土地)と奉公の関係とした制度
3. 執権政治　※頼朝の死後、執権(政務を担当する職)の北条家が実権を握っていた政治
4. 御成敗式目　北条泰時(やすとき)が制定した最初の武家法で、武士たちを統率することが目的

※武家諸法度とは目的が違うので注意

1. 二毛作：同じ耕地で一年の間に米と麦を栽培すること

鎌倉時代の文化面

特色：武士の力強い文化と貴族の伝統文化が並立していた(この特色から鎌倉時代だと分かるとGood!)

宗教：戦乱や災害から逃れるため、新仏教が現れた



鎌倉幕府の時代に起きた争い

承久の乱(1221年)

後鳥羽上皇らが倒幕をはかり、失敗した戦い　※武士から再び天皇中心にすることが目的だった

元寇(13世紀後半)

執権政治時代の北条時宗の時に、元(モンゴル帝国)が二度にわたって襲来したこと

度重なる元寇の結果・・・原稿は新たに土地が手に入るわけではないので、御恩と奉公の奉公(土地)が足りず、御家人との関係性が悪化し幕府が衰えていった。。。